

第 46 回定時株主総会 質疑応答概要

2026 年 6 月 26 日に開催した第 46 回定時株主総会における、事前質問と当日質問へのご回答について、概要をご案内申し上げます。ご理解いただきやすいように加筆・修正しております。

1. 事前質問へのご回答

Q1	女性の社外取締役比率（67％）に比べ、社内取締役比率（14％）が低い理由は何か。優秀な女性社内取締役が育っていないのではないか。
A1	優秀な女性幹部は着実に育っているが、全体数がまだ少ないのが現状である。そのため、マネージャー研修の充実や、仕事と家庭の両立が可能な勤務制度の整備を進め、積極的な育成を継続していく。 なお、取締役会全体の女性比率は 23％であり、議決権行使助言会社の推奨基準を満たす水準を確保している。

2. 当日質問へのご回答

Q1	「日本ライフライン」から「JLL Med」への社名変更について、医療現場での知名度やブランド力が低下する懸念はないか。このタイミングで社名変更を行う理由と、新しい社名で目指す企業像について。
A1	当社は 1981 年の創業から 45 年を迎え、現在は第二の創業期にあると考えている。現在、当社の売上は国内需要が約 97％を占めているが、自社製品のさらなる成長にはグローバル展開が不可欠である。 しかし、海外で「Japan Lifeline」の商標登録が困難なエリアがあったため、進出の課題となっていた。そこで、海外でも認識しやすく、当社の財産である「JLL」の文字を残した新社名への刷新を決断した。「JLL」は国内の医療現場でも親しまれている愛称のため、ブランド力低下の懸念はない。 長期的な展望としては、10 年後に現在の約 2.5 倍の売上高を達成することを合言葉に、その 3 分の 1 を海外売上高が占めることを理想として、社内で様々な可能性を探索・検討している。 社名変更を機にグローバル企業への変革を推し進めていくため、株主の皆さまには中長期的な視点で見守っていただきたいと考えている。

Q2	不整脈の新治療法 PFA（パルス・フィールド・アブレーション）によるカテーテル売上へのマイナス影響と、新製品の心房中隔穿刺用高周波ワイヤ「XEROstar（ゼロスター）」によるリカバリー状況・今後の売上見通しについて。
A2	心房細動治療において、市場の主流が従来の高周波から新たな治療法である PFA へと移行しつつあり、当社が現時点で PFA 製品を保有していないため、一部製品でマイナスの影響を受けていることは事実である。 PFA は熱を発生させない治療法であるため、これまで熱による食道への影響を防ぐために用いられていた食道温モニタリング用カテーテルの販売は減少している。一方で、PFA の普及は手技時間の短縮をもたらし、全体の症例数を大きく増加させている。この症例数の増加に伴い、当社の主力製品である心腔内除細動カテーテルの販売数が大きく伸びており、マイナス影響は一部の製品にとどまっている状況である。 また、今年 3 月に発売した新製品の「XEROstar」は、すでに市場の約 20％のシェアを確保していることを社内調査で確認している。対象市場規模は約 50 億～60 億円と見込んでおり、今期末にはシェア 30～40％の獲得を目標に掲げ、現在さらなる拡販に努めている。